

(1)国語科における昨年度の改善プランの検証

観点	検証
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 授業をはじめとして日常生活の様々な場面(講話、話し合い、会話、作文など)において、自分自身の言語生活を振り返る姿勢や言語表現を豊かにしようとする意欲がうかがえる。また、その成果として2学年、3学年の校内正答率の上昇があったと考えられる。 朝読書では、それぞれに目的意識をもって集中して取り組んでいる。 漢字能力検定受検への積極的な姿勢が見られる。
話す・聞く能力	<ul style="list-style-type: none"> 学年ごとに聞き取りテストやスピーチ、暗唱などの取り組みを実施、評価方法の工夫を行っている。 適切な評価に向けてプリント・ノート回収を行うと、メモなどの工夫をして整理している生徒が増えてきたことが分かった。聞き取る力(聞く力・書く力)の向上に結びつけるためにも、粘り強い指導を継続する必要がある。
書く能力	<ul style="list-style-type: none"> 論理的な文章の表現力向上を目指した課題作文や学習シート、論述問題に積極的に取り組めた。ただし長い文章を書く際に、文法に気をつけさせる意識づけは継続していく必要がある。 推敲の重要性について再認識させるとともに、課題作文での実践をさらに継続する必要がある。
読む能力	<ul style="list-style-type: none"> 授業における発問や学習シートなど、課題設定の工夫を今後も継続していく必要がある。とくに、説明的文章の読み取りに課題が残る。語句・語彙などの知識・理解との関連を明らかにした上で、辞書や副教材の文章を活用した「読解」指導を継続している。
言語についての知識・理解・技能	<ul style="list-style-type: none"> 漢字検定受検奨励を通じて、漢字力向上を図っている。また、小テストなどで定着を図っている。 文法や語句の理解を深める学習には、さらなる教材の工夫や補習態勢の充実が必要である。 書写の課題や漢字学習の課題、作文指導を通して、文字を正しく丁寧に書こうとする態度を意識させてきたが、さらに継続していきたい。

(2)国語科の今回の学習効果測定等における分析(内容別・観点別)

内容項目	分析
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> 2、3年生は目標値を上回る結果であるが、1年生は若干下回る結果となった。とくに、正確に内容を聞き取る能力に課題がみられるので、意図的に話を「聞く」ように、授業の中で工夫が必要である。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> 全学年とも目標値を上回る結果であった。 1年生については「自分の立場を明らかにして書く」ことに課題があるので、何かを読んだりして自分の考えを持たせてから「書く」活動を行う必要がある。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> 全学年をとおして、文学的文章にくらべて説明的文章の読み取りが弱い傾向にある。 文章の構成や展開を正確にとらえる問題に課題が残る。
言語事項	<ul style="list-style-type: none"> 全学年で、いくつか目標値を下回る設問がみられた。この設問には、漢字の書き取りが多い。 2、3年生については、文法・語句に関する知識の正答率がとくに高かった。

観点	分析
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 目標値をわずかに下回る学年もあったが、おおむね達成できている。
話す・聞く能力	<ul style="list-style-type: none"> 2・3年生は目標値を上回る結果であるが、1年生はわずかに下回る結果となった。 特に、話の内容を正確に聞き取る力が弱いと思われる。
書く能力	<ul style="list-style-type: none"> 全学年とも目標値を上回る結果であった。 一方で、1年生は文章の内容に沿ったまとめ書く問題、2年生は三段落構成で書く問題、3年生は書いた手紙を書きなおす問題について、課題が残った。
読む能力	<ul style="list-style-type: none"> 目標値に対しておおむね達成できているが、3年生の設問に大きく下回ったものがあった。説明文の構成や展開をとらえる問題であったため、文学作品に比べて苦手意識を抱えていることが予想される。
言語についての知識・理解・技能	<ul style="list-style-type: none"> 全学年とも目標値を上回る結果であった。 2年生の「漢字を読む」問題で、目標値を大きく下回っていた問題があった。当該問題は、他の問題の言葉よりも、中学生が普段の学校生活や家庭生活の中で、聞いたり使ったりすることが少ないことが原因であると考えられる。

(3)国語科の今回の学習効果測定等における課題

<ul style="list-style-type: none"> 全学年でどの観点でも目標値を上回る結果が多かった。この状態を維持していきたい。 「聞き取る力」の弱さは、国語にとどまるものではないので、あらゆる場面で集中力・想像力を高める訓練を行う必要がある。 どの学年についても小学校、また前学年で学習した漢字の書き取りに課題があった。漢字の定着、という点に注意して指導する必要がある。 文法・語句に関する学習と文章読解の学習を関連付けることによって、どんな文章にも対応できる「読む力」「書く力」を養わなければいけない。

(4)国語科の具体的授業改善策

観点	具体的な授業改善策
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の読み書きや語彙を豊かにする学習を繰り返し行い、文章を正確に読み取る力や自分の意見を的確に表現する力を伸ばしていく。とくに、ICTを利用して漢字フラッシュカードを作成し、生徒の意欲をかきたてる。 生徒個人が、それぞれに目的意識をもって取り組むことのできる「朝読書」を充実させる。 日本漢字能力検定の受検奨励。 図書館(図書コーナー)の活用を充実させる。
話す・聞く能力	<ul style="list-style-type: none"> テーマを定め、グループや学級の中など、いくつか形態を設定し、朗読したり発表したりする機会を設け、指導していく。 ノート整理のしかた(聞き取った内容をメモする欄の設定など)について指導する。 授業の中でスピーチや聞き取りテスト、細かい話し合い活動を行う。
書く能力	<ul style="list-style-type: none"> 文章を推敲することの重要性について具体的なきまりを確認するとともに、課題作文など実践的な取り組みの中で指導していく。 論理的な展開のある文章表現力の向上を目指し、課題作文や学習シート、テストなどの論述問題への取り組みの中で、文と文のつながりや段落の構成などについて意識しながら書く指導を行う。
読む能力	<ul style="list-style-type: none"> 授業における発問や学習シートなどの課題設定の工夫をする。(論理的な展開を的確につかんだり、登場人物の心情を読みとったりする方法や手段について実践的に学べるものなど) 文学的表現・説明的文章ともに必要に応じて、生徒の関心をひくような教科書以外の文章を適宜用意使用する。また、教科書の巻末資料を活用するように指導する。古典の学習においては、内容理解の上につけて、暗唱の指導を積極的に行う。 語句・語彙などについての知識・理解との関連を明らかにした上で、辞書や副教材の文章を活用した「読解」指導を充実させる。
言語についての知識・理解・技能	<ul style="list-style-type: none"> 日本漢字能力検定などの受検奨励を通じての漢字力の向上。 定期的な漢字学習課題への取り組みとその成果を確認するための小テストなどの実施回数を増やす。 語句・語彙など文法的な事項についての理解に結びつく課題学習。(副教材や学習プリントのまとめ、辞書を使用する授業など)。 書写の学習を核として、適切な点画や筆順で文字を書くように意識づけを行う。

学年	具体的な授業改善策
1学年	<ul style="list-style-type: none"> 漢字を「読む」問題が出来なかった生徒が多かったため、漢字の課題や小テストを実施し、基礎・基本的な知識を身につけさせる。 「話すこと・聞くこと」の領域について、目標値を下回っていた。とくに「聞くこと」に課題があったので、様々な場面で集中力を養っていくとともに、授業でもメモを取らせる指導を行って意識的に聞く力を身につけさせるようにしていく。
2学年	<ul style="list-style-type: none"> 漢字を「読む、書く」の項目では、既習漢字の正答率に課題があった。学習した漢字の定着を図るために、毎時間漢字練習の時間を設け、書き取りの力を伸ばしていく。また、幅広い漢字の能力を身に付けるために、教科書だけではなく他の教材も使って指導し、定期的に漢字テストを実施する。 「読む」項目については、漢字の学習も含め語彙力を高めるとともに、指示語や接続詞の使い方にも注意をし、ワークブック・ワークシート等も活用し読解力を高める。
3学年	<ul style="list-style-type: none"> 漢字を読む能力に比べて、書く力に課題がある。読むことができるが書くことができない、という状況を改善するために、日常生活の中で積極的に漢字を使うように指導していく。 「読む」の項目では文章の構成や内容の理解に課題が残るので、接続詞や言い換えに注意して読解ができるように指導する。